



安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める

奈良1区

市民連合

ニュース

第4号



## 立憲野党 奈良1区市民連合トーク集會に集結

11月21日(土) 14-15時 JR 駅前東口広場で「市民と立憲野党の街頭トーク集會が開催され、科学者會議奈良支部の代表の訴えに続いて立憲民主党、共産党、新社会党、緑の党の各代表が揃って決意表明を行い、また各分野の人たちが次々スピーチに立ちました。



## 核禁条約 日本も批准を！

「立憲野党の政策に対する市民連合の要望書」にもある通り、非核化は市民連合の重要な課題です。日本政府に核禁条約への参加を求める地方議会の意見書はすでに494議会(全自治体の27%)に上っていますが、日本政府は依然として無視し続けています。

自らも被爆者で「ぼくの戦争一原爆はそら豆がこげるにおい」(ウインかもがわ 出版)の著者であり永年に亘って活動を続けてこられた秋山勝彦氏に来年1月22日に発効する核禁条約について語っていただきました：



被爆体験を語る前に.....

秋山勝彦



僕は奈良県下の20を超える小学校で、広島への修学旅行前に『被爆体験』を話してきました。しかし今年には新型コロナウイルスの為旅行が無くなり、僕の被爆体験授業も無くなっていました。9月になって、せめて平和授業で被爆体験話だけでも子供へ・・・と依頼が来るようになりました。10月26日奈良市の某小学校6年生70人を前にして僕は話を始めました。この日、僕は前日のニュースがうれしくて自分を抑えられない気持ちだったので。

『みなさん僕は、被爆体験を話す前にどうしても話しておきたい事があります。これはきっと難しくてもみなさんにはちょっと理解できないことかもしれませんが、家に帰ったらお母さんお父さんに話してください。(被爆者の秋山さんがお礼を言

っていた)と話してください。では始めます。

2021年1月22日より『核兵器を作ること、所有すること、使うこと、そして核兵器を使って脅すこと』全て、国際法上『違法』となります。

10月24日、「ホンジュラス」が50カ国目の核兵器禁止条約批准を行い、これにより来年2021年1月22日に『核兵器禁止条約』は発効となります。これは僕の予想より3ヶ月も早いものです。今年の初め50国の必要批准国へあと10カ国ほどと迫っていたものの、批准完了は年末か1月、発効は春ごろとっていました。被爆者として生きて75年、とてもうれしいです。そして署名に行進に懸命の応援支援をしていただいたみなさまへ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

同時に僕の気持は複雑です。とうとう日本政府はこの条約の批准をすることなく50カ国に入らなかった。これから世界の多くの国が核兵器禁止条約の批准をしましょう。批准国が100国、120国となって初めて今の日本政府は、あたりをうかがい批准へと向かうのでしょうか。これが二度も三度も四度も被爆者を出した国のやることか？

もしかするとこの国の指導者は、密かに原爆を持ちたい使いたいと思っているのではないか・・・と恐ろしくもなるのです。核兵器廃絶を目指しこれからも僕は闘います。』

子供たちはぼかんとしていました。校長をはじめ4人ほどの先生方もぼかんとしていました。その中を僕はゆっくり静かに『被爆体験』を話し始めたのです。僕の原爆の話は小さな子供だったので怖くない、ただただ不思議でおかしなところもあるよ、面白かったら笑ってね、というのが良かったか、子供たちは徐々に柔らかくなり笑い声も出るようになりました。

## 日本学術会議任命拒否に満身の怒りを込めて！



11月3日国会前にて「安保関連法に反対する学者の会」主催で、「学問の自由を守れ学者・学生・市民による抗議行動」が開催されました。佐藤学代表は挨拶の中で、「菅は『多様性』を言うが菅政権の21名の閣僚の内15名が日本会議ではないか！自分の足許を見て物を言え！」、また「日本学術会議から学術をとったら日本会議になってしまう」という水島朝穂早大教授（同じ安保学者の会の呼びかけ人）の言葉を紹介していましたが、正にそこに学術を学者を政治のしもべにしたいという菅政権の意図が見えます。抗議集会には、日本ペンクラブ会長、大学人、学生、院生、映画監督等が次々と登壇し、800人の熱いコールが国会前にコダマしました：**勝手に決めるな♪ 学問守れ♪ 自由を守れ♪ 嘘をつくな♪ 6人任命せよ♪ ヘリクツ言うな♪ コソコソするな♪ 杉田は出て来い♪ 憲法守れ♪ 法律守れ♪♪♪♪♪♪♪**

同会は10/4「菅首相の日本学術会議人事への政治介入に抗議する声明」を発しました。12/4現在の同会の集計によると、抗議声明を発表したのは、学協会1004、大学・研究所関係43、大学人関係29、労働組合関係40、法曹関係51、その他宗教団体（生長の家も）、文化芸術団体など100

僕は一気に持ち時間の60分を使い切り、質問の時間になりました。いつもならほとんど質問が出ないのに、この日は次から次へと質問が出ます。広島長崎原爆放射能、核兵器禁止、平和行進、平和宣言、サーロー節子さん、・・・たちまち時間が無くなってしまいました。

子供には分からないだろう・・・なんて間違っていた。彼らはちゃんと新聞やテレビを見て知っているのだ、大人がごそごそなにをやっているか、それは将来自分たちに関係することなのか？子供たちは心の目で見ているのだ。

僕のうれしい心が、僕の皆様への感謝の心がそのまま子供へ伝わり、子供の活発な質問となって現れたと僕は思いました。家に帰ったらお母さんに言ってくれるだろう。「お母さん秋山さんがお礼を言っていたよ。核兵器禁止条約発効ご支援ありがとう・・・って」

「秋山さんって誰よ？」「そんなことしらへん」・・・きっとこんな会話があるだろう。

僕はまだまだ被爆体験を話し続けます。

を超える諸団体に広がっています（安保関連法に反対する学者の会 HP—声明を発した物凄い数の学協会等々の名称と集会の様子を見せるYouTube必見）。人文系だけを例にとっても310学会に上ります。中でも今イタリア学会が出した声明が話題になっています：紀元前5世紀のアイスキュロスの作品『縛られたプロメテウス』の話。プロメテウスは絶対君主ゼウスに逆らって、天上の火を人類に与えたために、暴君ゼウスから罰を受けて磔にされる。彼を連行した2人はKratos(クラトス)「権力」とBia(ピア)「暴力」という名。ピアは一言も言葉を発しない。無言の暴力で他者を従わせるのが権力という寓意である。ギリシャ語のピアやイタリア語のviolenzaは単に武力による物理的な暴力だけではなく、圧力や強制を意味する。ピアのように《説明しない》ことが権力(クラトス)である。カフカの『審判』もソルジェニーツィンの『収容所群島』も、何の《説明もなしに》逮捕され、強制収容所に連行される日常が記録されている。「説明しない」ことこそが権力の行使であり、国民を無力化させる手法である。こうした事例からも民主主義がいかに「説明すること」にかかっているかが判る、と。